

# 2023年3月期 第2四半期 決算説明資料

2022年11月10日

鉦研工業株式会社  
〈証券コード:6297〉





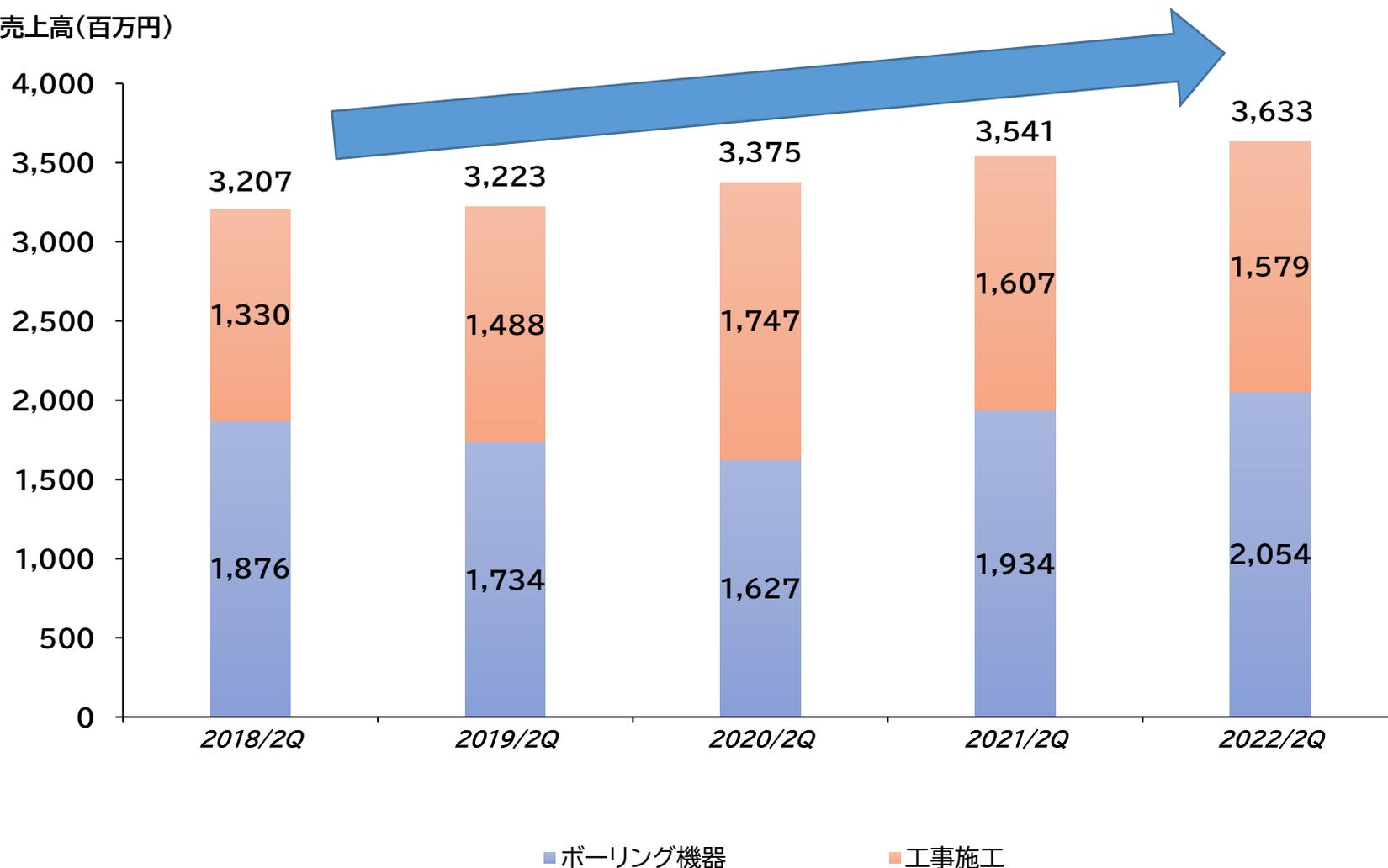
## 目次

- **2023年3月期 第2Q 決算概要** P.3
- **2023年3月期連結業績見通し** P.15
- **当社グループ連結子会社に関するお知らせ** P.18

- **2023年3月期 第2Q 決算概要**
- 2023年3月期連結業績見通し
- 当社グループ連結子会社に関するお知らせ

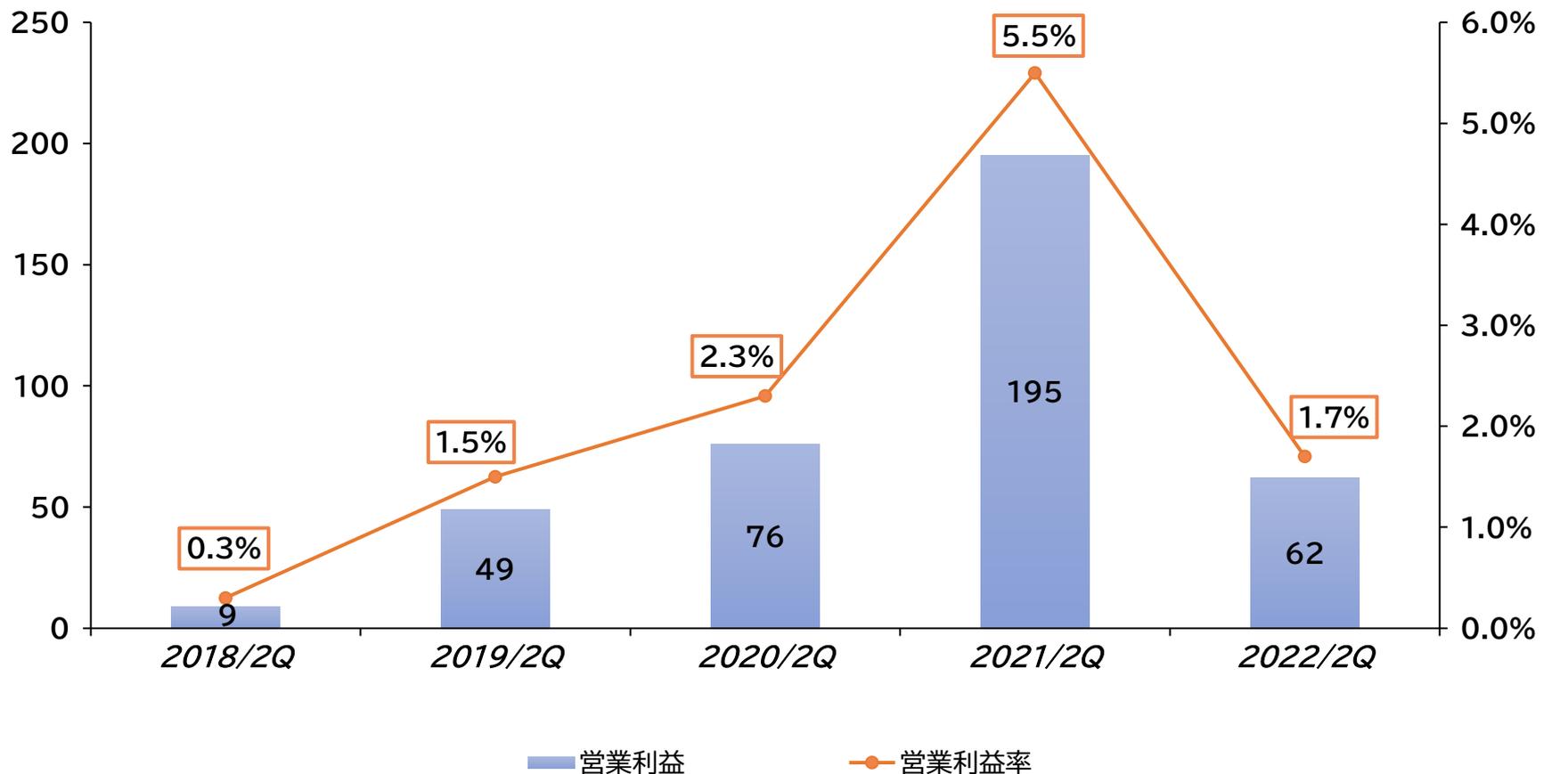
第2四半期売上高については、堅調な公共工事に支えられ32億円～36億円の安定した推移で増加傾向となっている

売上高(百万円)



第2四半期営業利益については、売上高は増加も原材料の価格転嫁の遅れにより原価率は悪化、販売費及び一般管理費の増加により減少

営業利益(百万円)



- 第2四半期売上高については、ボーリング機器関連において第1四半期で工場引越の影響で出荷停止分を挽回すべく、生産活動を加速させたことを主たる要因として、全体の売上高は前年同期を上回る

単位:百万円

	2020/2Q		2021/2Q		2022/2Q	
	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比	
売上高	3,375	3,541	4.9%	3,633	2.6%	
営業利益	76	195	156.7%	62	▲67.7%	
経常利益	77	187	141.1%	40	▲78.2%	
四半期純利益 <sup>※1</sup>	※2 720	190	▲73.6%	※3 103	▲45.6%	
1株純利益(円)	80.40	22.23	▲72.4%	12.30	▲44.7%	
ROE	17.2%	4.2%	▲13.0pt	2.3%	▲1.9pt	

- 受注高 : 原材料の高騰により、ボーリングマシン本体やプラント等の受注延期もあり減少
- 売上高 : ボーリング機械本体の生産拡大と部品及び商品・ツールズ類の販売拡大により増加
- 利益 : 原材料の高騰を販売価格に反映することに若干の遅れと固定費(伊勢原工場償却費等)増加もあり原価率の悪化により減少

単位:百万円

	2020/2Q	2021/2Q		2022/2Q	
	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比
受注高	2,378	2,136	▲10.2%	1,899	▲11.1%
売上高	1,627	1,934	18.9%	2,054	6.2%
セグメント利益 (営業利益)	▲67	27	—	▲14	—

- 受注高 : トンネル工事先進調査の大型案件が減少と、温泉工事等の着工延期により減少
- 売上高 : 大口径掘削工事(BM工事)、コントロール工事の進捗による増加あるも温泉工事、アンカー工事が減少
- 利益 : 売上高は減少し、温泉工事案件等による原価率の悪化と販売費及び一般管理費の負担増加により減少

単位:百万円

	2020/2Q	2021/2Q		2022/2Q	
	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比
受注高	2,228	1,524	▲31.6%	1,467	▲3.7%
売上高	1,747	1,607	▲8.0%	1,579	▲1.7%
セグメント利益 (営業利益)	146	166	13.6%	76	▲54.3%

- 売上高については、増加したものの原価率悪化により粗利益は9.8%減少、販売費及び一般管理費の増加もあり営業利益は67.7%減少したが62百万円を計上、土地売却益113百万円もあり四半期純利益※は103百万円

単位:百万円

	2020/2Q	2021/2Q	前期比	2022/2Q	前年同期比増減	
売上高	3,375	3,541	166	3,633	91	2.6%
売上原価 (原価率)	2,382 (70.6%)	2,504 (70.7%)	122 (0.1pt)	2,697 (74.2%)	193 (3.5pt)	7.7%
売上総利益	992	1,037	44	936	▲101	▲9.8%
販売費及び 一般管理費	916	842	▲74	873	30	3.7%
営業利益 (営業利益率)	76 (2.3%)	195 (5.5%)	119 (3.2pt)	62 (1.7%)	▲132 (▲3.8pt)	▲67.7%
営業外損益	1	▲7	▲9	▲21	▲14	－
経常利益	77	187	109	40	▲146	▲78.2%
特別損益	960	0	▲960	114	113	－
法人税等	314	▲4	▲319	52	57	－
非支配株主利益	2	2	▲0	▲1	▲3	－
四半期純利益※	720	190	▲530	103	▲86	▲45.6%

※四半期純利益:親会社株主に帰属する四半期純利益

# 決算概要－受注状況(受注高・受注残高)

■ 受注高:2022/2Q実績 3,366百万円(前年同期比▲294百万円)

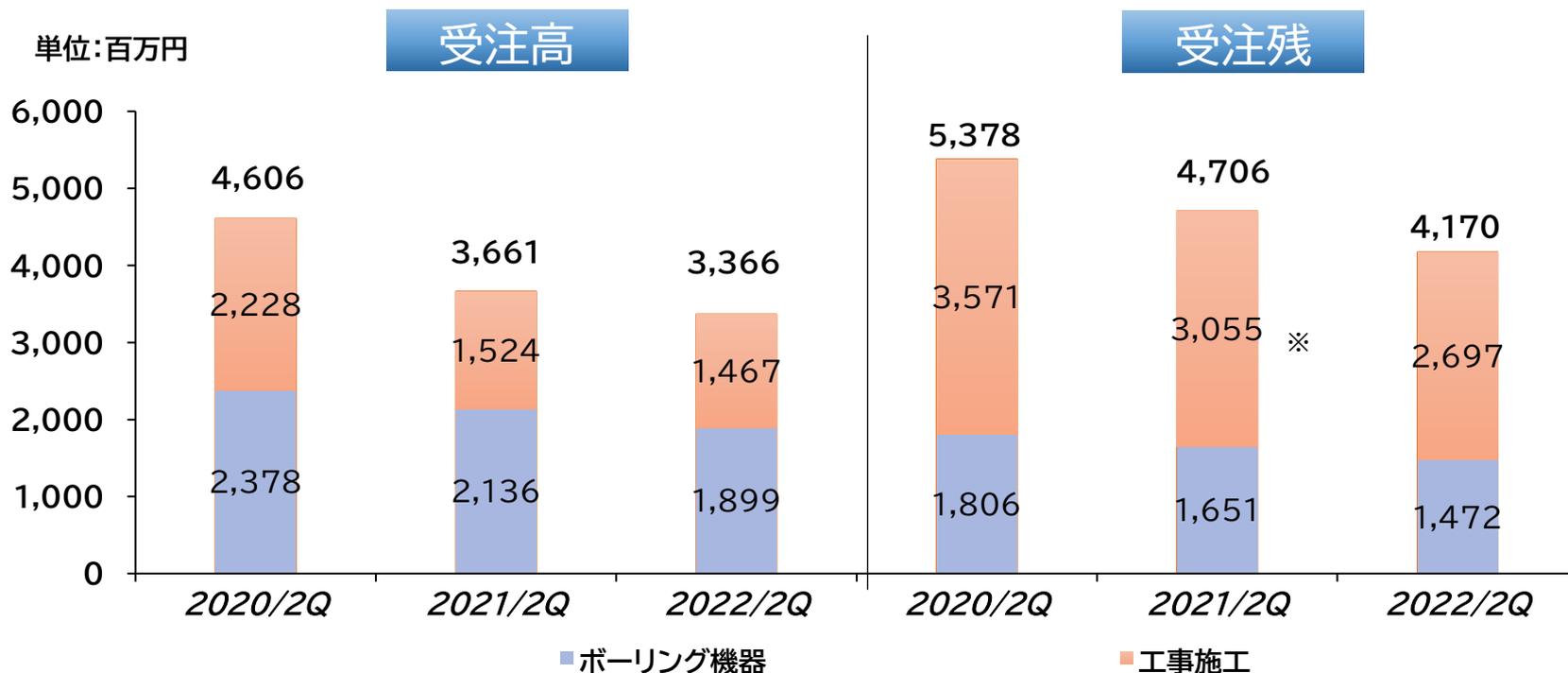
▶ ボーリング機器:1,899百万円(前年同期比▲237百万円)

▶ 工事施工:1,467百万円(前年同期比▲57百万円)

■ 受注残:2022/2Q実績 4,170百万円(前年同期比▲536百万円)

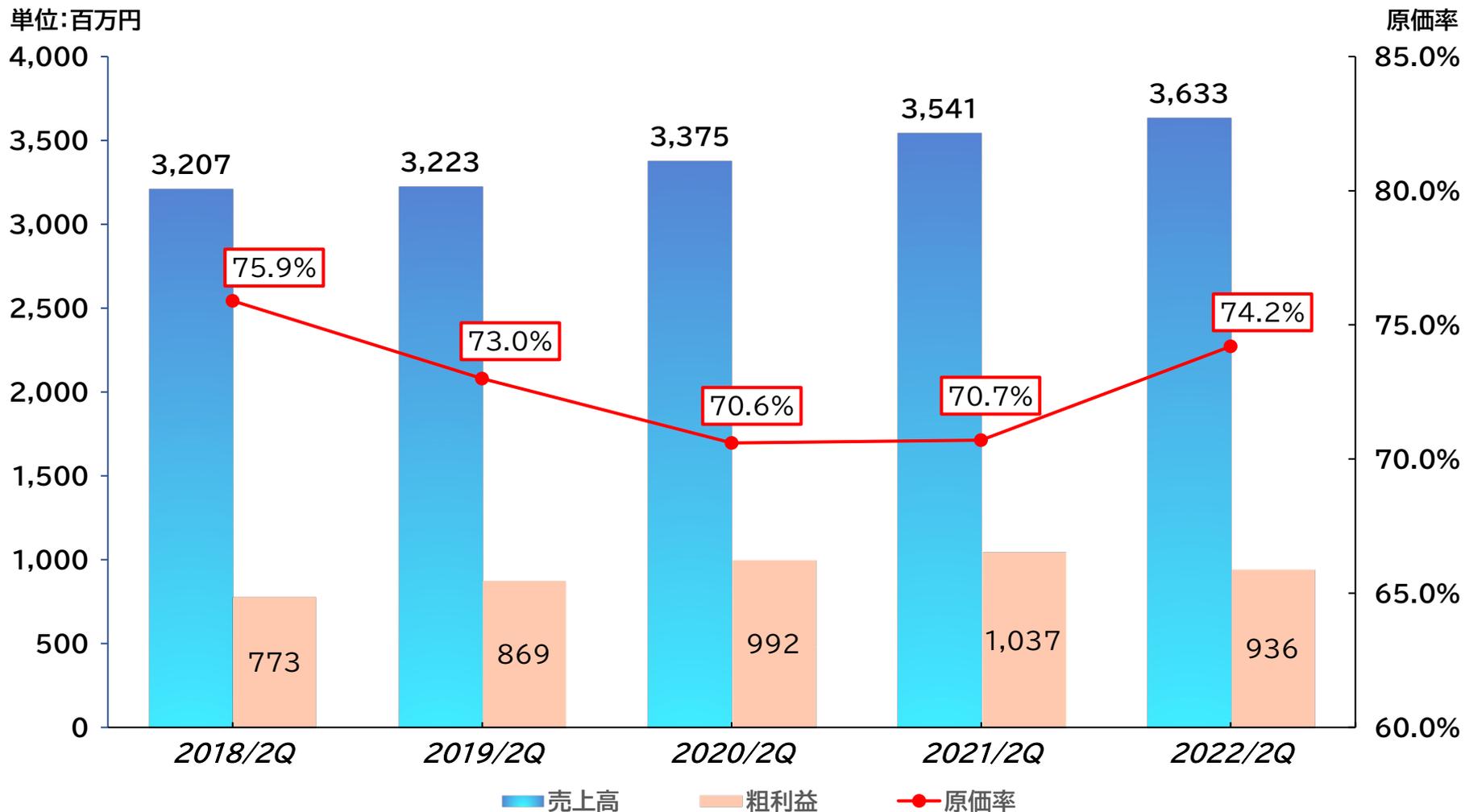
※ ボーリング機器については納期長期化が影響したため伸び悩み

※ 工事施工については大口契約から都度契約への移行が進んだこと大型工事の着工が遅延されるも、受注高全体については公共工事が底堅く推移していくことから、下期回復を見込

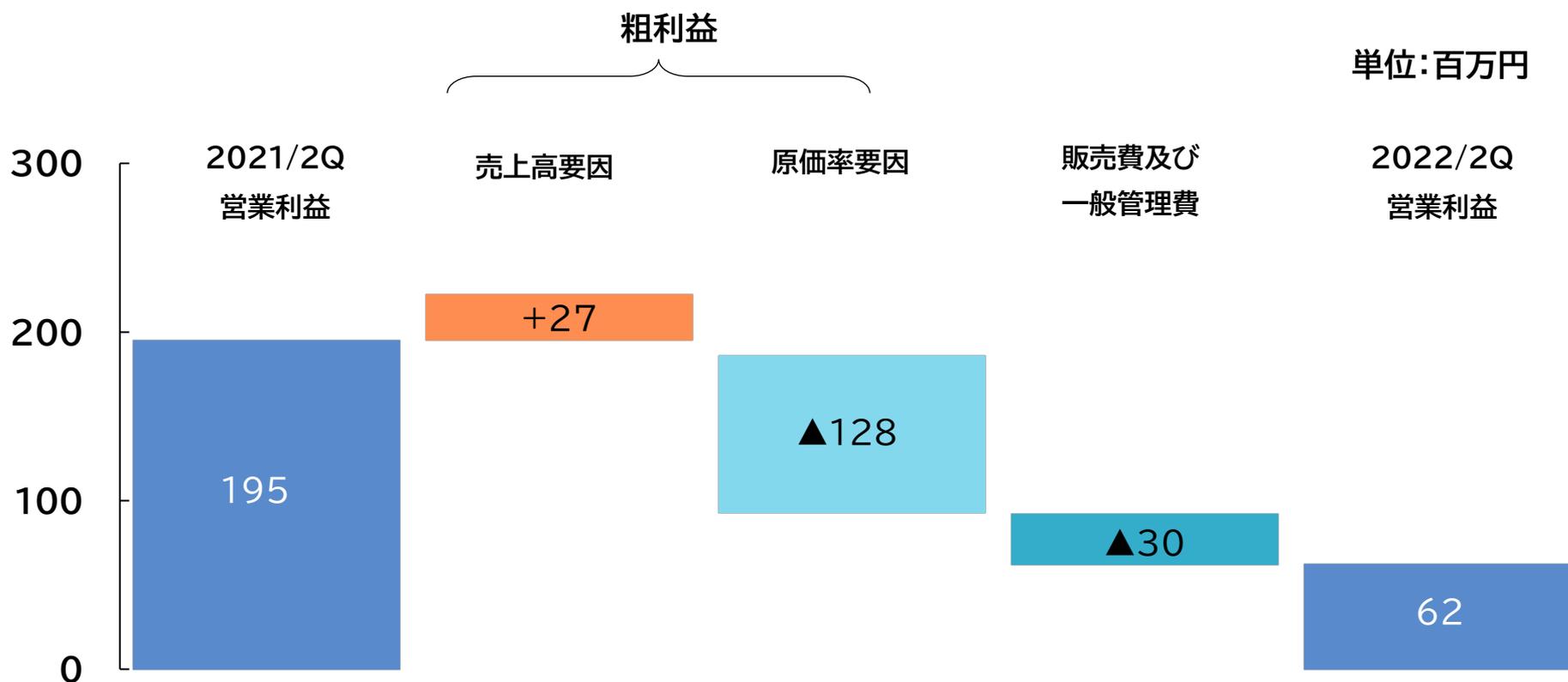


※収益認識会計基準等の適用により、2021/3期の工事施工の受注残高は3,385百万円から247百万円減少し、3,137百万円としております。

- 売上高については増加(91百万円)したが、原価率は3.5pt悪化
- 粗利益については、936百万円で前年同期比101百万円(9.8%)減少



- 売上高については売上高増加(91百万円)の影響で27百万円増加
- 原価率については(70.7%→74.2%)3.5Pt悪化し、▲128百万円
- 販売費及び一般管理費については前年同期比増加により▲30百万円



# 決算概要－連結貸借対照表の概要

単位:百万円

科目	2022/3期末	2022/9期末	前期増減額
資産の部			
流動資産	6,369	6,434	65
固定資産	5,260	4,877	▲383
資産合計	11,629	11,311	▲317
負債の部			
流動負債	4,487	2,550	▲1,936
固定負債	2,551	4,172	1,621
負債合計	7,038	6,722	▲315
純資産の部			
株主資本合計	4,700	4,726	25
その他の包括利益 累計額合計	▲137	▲137	0
非支配株主持分	28	－	▲28
純資産合計	4,591	4,589	▲2
負債純資産合計	11,629	11,311	▲317

棚卸資産 292百万円  
売上債権▲130百万円

設備投資 280百万円  
土地売却▲581百万円  
減価償却▲94百万円

短期借入金※1  
110百万円  
買入債務▲643百万円  
未払費用  
(伊勢原工場関連)  
▲1,440百万円

長期借入金※1  
1,574百万円  
(シンジケートローン借入等)

四半期純利益※2計上  
103百万円  
配当金支払▲84百万円

※1 1年内返済予定の長期借入金含む ※2 親会社株主に帰属する四半期純利益

単位:百万円

科目	2021/2Q	2022/2Q	前年同期比
営業CF	385	▲648	▲1,034
投資CF	▲720	▲915	▲195
財務CF	663	1,560	897
現金等期首 残高	1,387	1,223	▲163
現金等期末 残高	1,716	1,220	▲496

四半期純利益※計上154百万円  
仕入債務の減少額▲643百万円  
(支払サイト短縮による)  
棚卸資産の増加額▲297百万円

伊勢原工場関連  
▲1,511百万円

## 投資CFの内訳

項目	金額
定期預金の純増減額 (△は増加)	0
有形・無形固定資産の 取得による支出	▲1,582
有形・無形固定資産の 売却による収入	695
その他	▲27
<b>投資CF合計</b>	<b>▲915</b>

長期借入れによる収入  
(シンジケートローン借入等)  
1,825百万円  
長期借入金返済による支出  
▲139百万円

※税金等調整前四半期純利益

- 2023年3月期 第2Q 決算概要
- **2023年3月期連結業績見通し**
- 当社グループ連結子会社に関するお知らせ

- ウクライナ情勢の影響等による納期遅延、原材料高の影響等により厳しい状況は続きますが、営業活動・生産活動の加速を継続することにより、2022年5月10日に公表いたしました業績予想に変更はございません。
- なお2022年10月24日に公表いたしました、株式会社クリステンセン・マイカイの株式取得（子会社化）による当社連結業績に与える影響につきましては現在精査中であり、開示すべき事項が発生いたしましたら速やかに開示いたします。

単位：百万円

	2022/3期 実績	2023/3期 予想	前期比増減	
売上高	7,339	8,000	660	9.0%
営業利益	321	400	78	24.4%
経常利益	310	310	±0	±0%
当期純利益※	293	290	▲3	▲1.0%

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

## KOKEN 二重管ロッドハンドリングシステムRHSシリーズ

- ① RHS-1 驚掴番号
- ② RHS-2 驚掴式号



下期いよいよ市場投入見込みとなります。



- 2023年3月期 第2Q 決算概要
- 2023年3月期連結業績見通し
- **当社グループ連結子会社に関するお知らせ**

2022年10月24日のプレスリリースの通り、同日開催の当社取締役会にて株式会社クリステンセン・マイカイの全株式を11月30日(予定)に取得し、完全子会社化することを決議しました。

## ◆ 株式会社クリステンセン・マイカイの会社概要

名称	株式会社クリステンセン・マイカイ
所在地	東京都品川区西五反田七丁目24番4号
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 田中 洋
事業内容	ダイヤモンドビット製造・販売、コアバーレル製造・販売等
資本金	119,500千円
設立年月日	1999年11月10日
大株主及び持株比率	役員持株会 57.0%、従業員持株会43.0%

◆ 株式会社クリステンセン・マイカイの最近3年間の経営成績及び財政状態

決算期	2019年11月期	2020年11月期	2021年11月期
純資産	545百万円	594百万円	658百万円
総資産	1,427百万円	1,397百万円	1,379百万円
1株当たり純資産	237,533円	258,910円	286,919円
売上高	1,711百万円	1,732百万円	1,925百万円
営業利益	96百万円	78百万円	90百万円
経常利益	92百万円	75百万円	119百万円
当期純利益	57百万円	54百万円	70百万円
1株当たり当期純利益	24,875円	23,877円	30,508円
1株当たり配当金	5,000円	2,500円	7,500円

## 【株式取得の狙い】

中期経営計画「STEP UP 鉦研 ACTIONS2025」にある、戦略的パートナーとの協働による企業価値向上を目指して、シナジーを発揮し、互いに得意とする分野を活かしながら共に発展していきます。

## 【今後の計画】

営業部門やエンジニアリング部門など部門単位でワーキンググループを組成しており、早期にシナジーを発揮し、お客さまにお役に立てるよう取り組んで参ります。



## 将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。  
無断転載を禁ずる。